

日商簿記1級 153回 合格するための過去問ゼミ

令和2年10月29日

日商1級・財務諸表論・簿記論 中小企業診断士を多忙な経営者が取得した方法

今回のゼミはプロモーションを兼ねています。少し時間をください。なぜ「合格するための」なのか？

過去問は大事だが、没問の学習に時間を取られるとベテラン受験生になってしまいます。1級の講座はお金がかかります。受験料だってバカになりません。深い学習よりも、効率的な学習が求められます。CMC合格メソッドで早く1級を卒業し、実践的な学習に入りましょう！

没問は学習するな

当日の立ち回りで10点は違う

試験は試験 実務は実務 割り切ろう

1. 総括

153回は合格率9.8%。10%には届きませんでした。152回と比べると易くなったので12~3%はいくと思いましたが・・・

やはり、没問に時間をかけている気がします（会計学の連結部分、工業簿記の利益計算、

目標点は以下の通りです

	最低点	最高点	平均
商業簿記	18	23	20.5
会計学1問	8	10	9
会計学2問	4	6	5
工業簿記	17	20	18.5
原価計算	16	23	19.5
合計	63	82	73

1.商業簿記（18~20点：うまくいけば23点）

その都度四捨五入→CF見積法で別解もありえる

(1)商品売買→計算用紙整理すれば、問題の指示通りの処理ですべていける
専門校のまとめ方は本試験では難しい
私も計算用紙のように記入し、あとから「もっと楽な方法ある」と気づいた

(2)貸倒引当金→前T/Bの1,505（一般880+懸念625）
CF見積法→受取利息使わない（解答用紙の営業外費用に繰り入れがある）

(3)固定資産
建物は累計額から逆算で簿価求める
リース資産（備品）の減価償却費は $54,171 \div 3 = 18,057$ でもOK

(4)新株予約権付社債
時間なければ新株予約権を先にする手もある

販売費と一般管理費は必ず取る（他勘定振替を忘れない）

TAC配点（横山は50分で23/25点・・・リース債務と繰越利益剰余金は没）
リース債務は時間かかるので実施しない（社債もしないという選択肢はあり）
その場合でも18~20点は可能

2.会計学 (13~16点)

問題 1→ (うまくいけば 10 分で 10 点、2 と 3 の計算も時間かからない)
全経上級とビジネス会計検定 2 級の同時学習で問題 1 は 8~10 点取れる
(横山は 10 分で<リ>以外で 10 点)

<税効果会計>

繰延税金資産の動き

期首 3,000 → 期末 3,600

繰延税金資産 600 / 法人税調整額 600

資産除去債務

減価償却 $10,400 \div 8 \rightarrow 1,300$

利息費用 $\rightarrow 3,183 \times 3\% = 95$

合計 1,395

問題 2→

取得関連費用に注意

10 分で 4 点 **KEEP** できる

売掛・買掛・棚卸資産・資本金は超かんたん

+5 分でのれん これ 5 点

+5 分有形固定資産 (建物の減価償却 2 年分による減額注意) これ 6 点

評価差額の実現の問題も少しずつ難易度が上がっています。

今回は商業簿記で点を稼ぐ戦略でしょう。

3.工業簿記

全体読み取り 5分

<材料>

商品在高帳（問題用紙の余白右側に記入）

<例> 11/5 2,500個 購入代価@1,800→**4,500,000+450,000+50,000=5,000,000**

借方合計－期末在高（数量BOXで簡単に計算できる）→消費額計算

問2→(5)と(7)から月初と完成品わかるので逆算（読み取り難しいかも）

<間接費>

問題用紙に記入

<例>

コストプール	年間予算	年間基準総量	実際配賦基準量	計算結果
18,000,000	@5,000 3,600h	3,600h	300h	1,500,000

製造間接費→工場内部のコスト 生産技術費～検査費

販売費→工場から先のコスト 出荷物流費（荷造り運賃）・顧客サポート費

合計 40分あれば十分 17点～20点

問5は後回しで先に原価計算（結果的に90分では難しい）

（解説は別途計算用紙にて）

4.原価計算

問 1 (問題用紙に記載)

A-----> X

B-----> Y

資料 1

500 コ 400 コ

製品 X 製品 Y

あとは変動費のシュラッター図を X・Yの2つを書く (余白に)

精算販売データの横に仕掛品・製品BOXを書く

<問 1>当月の予算から算出 $2,840,000 \div 400 = 7,100$ 円

<問 2><問 3>は時間かける必要ありと判断。3点確保して第2問へ

15分でいけるでしょう。あと35分あり

第2問

計算上生ずる端数については、計算途中で四捨五入せず、最後の答えの段階で億円未満を四捨五入すること。(別解ありでしょう)

簡単なタイムテーブルで解答可能

	1	2	3	4	5
現金売上	1,000	1,050	1,080	990	720
現金支出	750	770	860	820	610
減価償却費	160	160	160	160	160
税引前利益	90	120	60	10	△50
法人税	27	36	18	3	
純CF	223	244	202	167	125

今後5年間は十分な黒字なので、5年目もTAXシールドあり

∴5年目も 160×0.3 のCIF効果あり

純CF計算方法の検算

→1年目で検算 $(1,000 - 750) \times 0.7 + 160 \times 0.3 = 223$

∴5年目は $(720 - 610) \times 0.7 + 160 \times 0.3 = 125$

⑦は内部利益率は選べるでしょう

⑥の計算は選択式なので比較的取りやすい

※平均純CF (192.2) $192.2 \times X = 793$ $X = 4.125 \dots$

年金現価係数 6%、7%、8%あたりを確認 ($1 \div 1.07 = \dots = GT$ が楽)

真ん中の7%で計算 802.895 次は8%で計算 783.864

7%と8%の間という事がわかる ∴7.5%

これなら20分程度で10点満点いけます

問題 1 に戻りましょう

①問 2 実際販売量に見合う予算営業利益
1,075,000

A	B	C	D
	X	Y	合計
実際数量	530	390	
予算売上	5,300,000	4,875,000	10,175,000
予算原価	2,650,000	2,769,000	5,419,000
予算販売費	530,000	351,000	881,000
個別固定費	450,000	700,000	1,150,000
共通固定費			1,650,000
			1,075,000

問 3 : 利益差異分析表 (電卓でできる分を優先)

販売量差異の意味が捉えにくいので、ここは取れなくても OK

変動販売費差異も後回し、2 級論点の原価差異から実施が無難

直接材料費差異 → BOX 書いて 総差異を算出 数量差異所与 → 逆算で価格差異を算出
加工費予算差異・能率差異 → シュラッターで解ける

15 分程度で 6 点

販売量差異・変動販売費差異は間に合わなくても OK

これで合計 21 点確保

合計 38 点確保

商会 35 点とあわせて合格圏内

<販売活動差異について考えてみた>

予算営業利益 1,000,000 円から Start して実際営業利益を求めることで、営業利益差異の詳細分析を行いたいわけです

①変動販売費差異→価格の差異は実際数量を乗じて計算

Xでチェック→ $(1,000 - 990.566\cdots) \times 530 \approx 5,000$ 有利差異

Yに適用→ $(900 - 917.948\cdots) \times 390 \approx 7,000$ 不利差異

②販売量差異については、売上価格でいくか・貢献利益でいくか、エイヤで 1/2 にかけてください

詳しい解説を別途考えますが、本試験では、じっくり考える暇はないと思います